

視察見学質問事項（秋田バイオガス発電所 11月8日視察）

| No. | 質問事項   | 回答   |
|-----|--|--|
| 1   | 事業計画に基づきとありましたが、事業化のきっかけについて詳しく知りたい。   | きっかけは、秋田市のごみ有料化です。ごみの減量を目的とした有料化であったため、生ごみを有効活用することによって秋田市のごみ処理量の削減になる、社会的にも意義のある事業だと考えたのが始まりです。 |
| 2   | 沢山のモーターやポンプを使っていますがその電気はどこからのものですか。  | メタン発酵に係る設備はメタンガスで発電した電気で作動させなければなりません。それ以外の設備で使用する電気は、東北電力から電気を買って動かしています。                       |
| 3   | 水道使用量や（施設内の）プロパン使用量はどのくらいですか。  | 処理量によって変動します。使用する水は上水と井水を使用しています。（使用量は未回答）   |
| 4   | 処理された汚水を下水に流していますが、下水料金はどのくらいですか。  | 例えば 50t の生ごみを処理した場合、おおよそ 50t 近くの処理水を放流することになります。（金額は未回答）   |
| 5   | 汚水処理の最後の方にある放流タンクの役割について教えてください。   | 放流水を場内の脱臭設備の散水用として再利用しており、その再利用水貯留のためのタンクです。   |
| 6   | 汚泥処理において調質剤や高分子凝集剤を使用していますがその商品名などを教えて欲しい。   | カチオン系高分子凝集剤を使用していますが、汚泥の性状に合わせて選定しています。  |
| 7   | 秋田の高齢化、人口減少は消費減少をもたらす食べ物の絶対量が減れば廃棄量も連動して減ります。あれだけの新しい大規模な設備がフル稼働し利益を上げられるだけの食品廃棄物が集まるのでしょうか。 | 一般廃棄物は秋田市内、産業廃棄物は秋田県内外から集めています。収集できる食品廃棄物の潜在量は十分にあると考えており、集めるための仕組み作りを進め、収集量を増やして利益を上げて行く予定です。   |

|    |   |   |
|----|---|---|
| 8  | イニシャルコストの割にランニングコストがかかっているのではないですか。   | 設備の延命化や自動化のためには必要な費用です。   |
| 9  | 発電機にはメタン：CO <sub>2</sub> =6：4の割のまま吸入するのですか。   | その通りです。そのような割合でのガスで動くようにエンジンが設計されています。  |
| 10 | 下水道への放流や堆肥に含まれる塩分濃度は問題とならないのですか。  | 特に問題になる濃度ではありません。   |
| 11 | 資格者の有無について教えてください。<br>(1) 廃棄物処理施設技術者<br>(2) 産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会修了者<br>(3) 電気主任技術者<br>(4) 公害防止管理者（大気）<br>(5) 除外施設等水質管理責任者（下水道）<br>(6) 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者<br>その他必要な資格がありましたら教えてください。 | 以下の通りです。<br>(1) 廃棄物処理施設技術者→有<br>(2) 産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会修了者→有<br>(3) 電気主任技術者→無（外部委託です）<br>(4) 公害防止管理者（大気）→無<br>(5) 除外施設等水質管理責任者（下水道）→無<br>(6) 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者→有<br>その他必要な資格がありましたら教えてください。→<br>施設に設置される設備や規模によって異なると思いますが、以下に事例を記載します。<br>・ボイラーの資格（ボイラーがある場合）<br>・クレーンの資格<br>・玉掛けの資格 |
| 12 | この他に次のような意見もありました。<br>行政で力を入れて県北、県南にそれぞれ1ヶ所設置が可能であれば秋田県にとって食品のロスが少なくなるのではないか。   |   |